

紹介

・Corina Riantoputra グローバルリーダーシップ研究所 特別招聘教授着任

開催報告

・IGLオンラインセミナー

第11回 サマプロ特別講演会対談「大衆文化のヒーロー 歌舞伎とマンガII」(2021年7月12日)

第12回 「女性のキャリア、リーダーシップの進化系を考える」(2021年10月13日)

第13回 「DX時代における女性リーダーの働き方」(2021年10月29日)

第14回 「パンデミックにおけるリーダーシップの重要性—新型コロナウイルスの場合」(2021年12月8日)

・第16回国際日本学コンソーシアム(2021年11月6日)

・国際シンポジウム「リーダーシップの地平:ジェンダー平等推進のための理論と実践」(2021年11月15日)

・学長カンファレンス お茶の水女子大学×梨花女子大学校

「明日へ—グローバル女性リーダー育成のためのビジョン—」(2021年12月1日)

・授業報告・女性のキャリアと経済/公開講演会

活動報告

・2021年度德音塾9月~12月 (2021年9月4日-12月11日)

お知らせ

・2021年度「未来起点フォーラム」開催

・2021年度「アカデミック女性リーダーへの道(実践編)」開講

・エッセイコンテスト「Ocha-IGL Award 2021」の募集について

・IGLオンラインセミナー・国際シンポジウム開催(2022年1-3月)

・グローバルリーダーシップ研究所ロゴマーク決定

紹介

Corina Riantoputra グローバルリーダーシップ研究所 特別招聘教授着任

2021年10月にインドネシア大学心理学部准教授の Corina Riantoputra (コリーナ・リアントプトラ) 氏を本学特別招聘教授としてお迎えしました(招聘期間は2022年2月まで)。

先生の専門分野はリーダーシップ研究、心理学、組織行動論であり、同分野において著書・論文を多数出版されているほか、「グローバル・リーダーシップと組織行動の有効性」(2020-2021)、「再教育・スキル向上に関する心理・社会文化的要素に関する研究」(2019-2020)等、様々な国際共同研究にて中核的役割を担っておられます。2021年度後期本学においてリーダーシップ研究・教育を担当し、現在「男女共同参画国際演習Ⅱ」が開講中です。2021年12月16日には国際シンポジウム「インドおよびイ

ンドネシアにおける女性リーダー:課題とエンパワメント戦略の観点から」を開催し盛況のうちに終了しました。

特別招聘教授についての詳細はIGLウェブサイトをご覧ください。

文責:本林 響子
(グローバルリーダーシップ
研究所 副研究所長)



第11回 サマプロ特別講演会対談「大衆文化のヒーロー 歌舞伎とマンガII」
 “Heroes in Popular Culture: Kabuki and Manga II” (2021年7月12日)

日時:2021年7月12日(月)18:00-19:30
 ゲスト講師:仲川広樹氏(株式会社集英社 コミック販売部部長)
 聞き手:埋忠美沙(お茶の水女子大学准教授)
 対象:サマプログラム履修者、本学学生及び教職員
 使用言語:日英(同時通訳あり)
 形態:Zoom Webinar
 参加者数:120名(内、サマプログラム履修者81名(14か国))
 共催:「伝統芸能×未来」プロジェクト Japanese Performing Arts for the Future (JPAF)、グローバルリーダーシップ研究所セミナー、Ocha Summer Program 2021 Special Lectures
 フライヤー:



対談内容:歌舞伎とマンガ、伝統芸能とサブカルチャーという、一見相反する二つの日本文化には、様々な共通点があり、今回の対談を通して両ジャンルの親和性を、「ヒーロー」という視点から学ぶことができました。近年日本では、マンガ原作の演劇作品が数多く上演され、大きな話題を呼び、若い世代に歌舞伎を広める呼び水となりました。これらの上演を通じて浮かび上がった歌舞伎とマンガの親和性、両ジャンルのヒーローの造形の特徴、メディアミックスの意義などを、歌舞伎とマンガ双方の視点から話し合いました。学生からのアンケートでは、98%の満足度があり、特に留学生からはもともと漫画に関心を持っていたが、本講演をきっかけに歌舞伎にも関心が持てたと回答した学生もいました。質疑応答時には海外における漫画の普及方法に関してなど多くの質問があり、講演者との活発なやり取りがありました。

文責:松田 デレク
 (国際教育センター
 兼 グローバルリーダーシップ研究所 講師)

第12回「女性のキャリア、リーダーシップの進化系を考える」(2021年10月13日)

企業の多様性を推進するコンサルタントとして幅広い経験をお持ちで株式会社カレイディスト代表取締役としてご活躍の塚原月子氏を講師にお迎えして「女性のキャリア、リーダーシップの進化系を考える」を開催しました。学生を中心に40名の参加がありました。

幾重もの環境変化の中で女性のキャリアやリーダーシップのあり方も従来とは変わってきており、未来を見据えたとき、女性のキャリア、リーダーシップの進化系として何が浮かび上がるのかということを中心にお話頂きました。ご講演では豊富なデータと併せて、成長や周囲からの評価を伴ういわゆる“Hot Job”へのアクセスが女性にはまだまだ十分ではないという指摘とともに、女性も自分らしさを大切にしながらリーダーシップを発揮する仕事を掴みに行くといった姿勢や合理的リスクを負う状況を恐れないことが求められているとお話頂きました。

他にも「デジタルによって女性が繋がる未来」というキーワードとともに、昨今のあらゆる分野におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)によって世界中の女性がリーダーシップを発揮しやすくなるといったことについても提起頂きました。

参加した学生のコメントとしては、「女性がリーダーを担う上で、インクルーシブリーダーというものが大切であるとい

うお話が印象に残った。特に、インクルーシブリーダーに必要な5つの資質である、『責任』、『勇気』、『寛容』、『謙虚』、『エンパワメント』のバランスの重要さと、境界が曖昧であるために良いバランスを保つことの難しさについてとても考えさせられた」などがあり、学生にとっても刺激の多いセミナーとなったことがうかがえました。

文責:岡村 利恵
 (グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)



第13回「DX時代における女性リーダーの働き方」(2021年10月29日)

2021年10月29日(金)16:40より第13回グローバルリーダーシップ研究所オンラインセミナー「DX時代における女性リーダーの働き方」を開催しました。講演者は志済聡子氏(中外製薬株式会社 執行役員 デジタル・IT統轄部門長)であり、「1.私のキャリア」、「2.デジタルトランスフォーメーション(DX)とは」、「3.中外製薬のDX戦略」の3部構成でお話いただきました。

「1.私のキャリア」では、大学時代の学びや経験がその後の人生に大きく影響したこと、ビジネスパーソンとして成功するためにはマネージャーの経験、専門力・人間力・社会力の3つのスキル、英語で的確に伝える力を身に付ける必要があるとお話いただきました。「2.デジタルトランスフォーメーション(DX)とは」では、いくつかの事例を挙げながら夢や理想でしかなかったコトやモノが現代におけるデジタル技術により実現されており、30年後には今とは全く新たな生活様式となる、とのお話が印象的でした。最後に「3.中外製薬のDX戦略」についてお話いただき、講演は終了しました。

質疑応答では多様な質問・感想が途切れることなく寄せられ、講演会終了後のアンケートでは「女性リーダーとしてのありがた、外資系での働きかた、ご自身のご経験

からの仕事と家事育児の両立のしかた、などお話が多岐にわたり、とても興味深く勉強になるご講演でした。」などの感想をいただきました。

このセミナーをきっかけに、働き方を考え行動する人が増え、各分野で変革をもたらすDXが実践されることを心から期待しています。

※講演内容の詳細はIGLホームページをご覧ください。

文責:内藤 章江

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)



第14回「パンデミックにおけるリーダーシップの重要性—新型コロナウイルスの場合—」

「The Importance of Leadership in a Global Pandemic: The Case of Covid-19」

(2021年12月8日)

新型コロナウイルス感染症の発生から2年が経過し、ワクチン接種率の向上とともに感染状況は小康状態になったかに見えましたが、新たな変異株の出現とともに、再び世界は混沌とした状況に陥っています。そのような中、シンガポール経営大学サクセスフル・エイジング研究センターから、Paulin Straughanセンター長と、同センターマネージャー Wensi Lim氏をお招きし、シンガポールにおけるコロナ禍と高齢者のウェルビーイングの関係性についてご講演頂きました。

シンガポールライブパネル(SLP)に基づいた分析結果が紹介され、パンデミックの期間中に高齢者のウェルビーイン

グがどのように推移したか、居住形態、社会的孤立、社会活動への参加度、通信技術の活用度等の観点から説明がなされました。また、政府への信頼度が高まるほど、高齢者の生活満足度も高まることが指摘されました。

指定討論者・趙成南(Cho Sung-Nam) 本学特別招聘教授のディスカッションでは、SLP調査に基づく研究の重要性、韓国・日本との比較、ビューティフル・エイジングという分析概念の提起など、非常に示唆に富む議論が提起されました。

参加者は学生や研究者を含め50名以上となり、参加者アンケートからは、「シンガポールの事例を知ることができた」

「政府への信頼が生活の満足度、幸福度と正の相関を持つという研究結果が非常に興味深かった」「国際比較をすることで見えてくるものがたくさんあった」「とても勉強になるセミナーだった」といった感想が寄せられました。

文責:宝月 理恵

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)



2021年11月6日(土)に比較日本学教育研究部門の主催で第16回国際日本学コンソーシアムを開催しました。共通テーマ「世界と日本:融合する文化」のもと、世界各地(ヨーロッパ3校、東アジア2校、オセアニア1校)から協定校6校および本学の合わせて7校が集い、報告者22名(教員10名、学生12名)を迎え、日本文化部会(10:00~12:00)、日本語・日本語教育部会(14:00~17:00)、日本文化部会(16:00~20:00予定、実際には21:00終了)と三つの部

会に分かれて、Zoomにて開催しました。参加者は日本文学部会54名、日本語・日本語教育部会53名、日本文化部会55名、延べ162名で、事後のアンケートではおおむね好評でした。

今回は初めてのオンライン形式による開催で、その成果として、一昨年までは日本での対面開催であったため協定校からは報告者のみが来日参加していたのが、今回は海外からも視聴が可能となり、報告者の他にも約26名が参加したことがあげられます。報告時間前後のフリートークタイムでは活発な議論が行われた部会もあり、オンライン上ではあるものの、教員や学生どうしの国際交流の場が実現できました。一方、時差の関係や報告者数の都合から一人

あたりの報告時間が15分と短くなり、また質問形式にも課題が残りました。以上、様々な反省点を踏まえ、今後の具体的な開催方法を検討したいと思います。

文責:神田 由築
(グローバルリーダーシップ研究所
比較日本学教育研究部門長)

時間	部会	報告者
10:05-10:20	開会	比較日本学教育研究部門長(神田由築)
10:20-10:35	「東洋の月-阿部仲実と日本人の文化意識-」	東北大学大学院国際文化研究センター/学生
10:35-10:50	「『未開の日本』と『開化の日本』- 東洋の文化と日本文化の対比 -」	中央大学/学生
10:50-11:05	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
14:00-14:15	開会	比較日本学教育研究部門長(神田由築)
14:15-14:30	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
14:30-14:45	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
14:45-15:00	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
15:00-15:15	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
15:15-15:30	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
15:30-15:45	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
15:45-16:00	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
16:00-16:15	開会	比較日本学教育研究部門長(神田由築)
16:15-16:30	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
16:30-16:45	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
16:45-17:00	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
17:00-17:15	開会	比較日本学教育研究部門長(神田由築)
17:15-17:30	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
17:30-17:45	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
17:45-18:00	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
18:00-18:15	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
18:15-18:30	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
18:30-18:45	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
18:45-19:00	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
19:00-19:15	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
19:15-19:30	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
19:30-19:45	「『日本書紀』の『天孫降臨』と『古事記』の『天孫降臨』- 天孫降臨の神話と歴史 -」	中央大学/学生
19:45-20:00	閉会	比較日本学教育研究部門長(神田由築)

国際シンポジウム

「リーダーシップの地平:ジェンダー平等推進のための理論と実践」

“Leadership for All: Theory and Action to Foster Gender Equality” (2021年11月15日)

グローバルリーダーシップ研究所とジェンダー研究所の共催で、標記のシンポジウムが11月15日(月)18時~20時に開催されました。オンラインで日英同時通訳つきです。まずキングス・カレッジ・ロンドンのロージー・キャンベル教授が「女性の政治参加:英国のケーススタディから」と題した基調講演を行いました。英国では女性議員の数は長い間低迷していましたが、1990年代後半に政党がクォータ制を導入したことで急増しました。最近の欧州議会選挙と総選挙では若い女性が左派寄りの投票行動を取ったことが目立ち、政党間でジェンダー問題で差異の出る政策を打ち出すことが鍵と云えそうです。

後半は基調講演を受け、本学のマイケル・キャロル助教と申琪榮教授、椋山女学園大学の木直子講師が、アジアの女性リーダーについてパネル・ディスカッションを行いました。10月の日本の総選挙では女性議員数が10%を割る結果になったことを踏まえ、国政選挙での世襲の仕組み、一党優位性での競争の弱さ、地方選挙での相対的な女性の進出、クォータ制の可能性などが議論され、キャンベル教授も議論に加わりました。シンポジウムには160人を超える参加があり、最後にはフロアからの質疑と応答も行われました。

このシンポジウムはIGLの「シリーズ:アジアにおける女性リーダーシップを考える」の一環です。今後も継続して議論を深めて行きますので、ご期待ください。

文責:小林 誠
(グローバルリーダーシップ研究所 研究所長)

学長カンファレンス お茶の水女子大学×梨花女子大学 「明日へーグローバル女性リーダー育成のためのビジョンー」

“Tomorrow: Vision for Fostering Global Women Leaders” (2021年12月1日)

12月1日に本学の佐々木泰子学長と韓国の梨花女子大学校の金恩美総長を登壇者にお迎えして、学長カンファレンス「明日へーグローバル女性リーダー育成のためのビジョンー」を開催しました。梨花女子大学校は韓国を代表する総合女子大学であり、お茶の水女子大学と同様に、長年にわたり女子教育を牽引し、社会のリーダーとなる女性を多数輩出してきました。



本カンファレンスでは、女子高等教育の更なる発展へと向かう歩みの一歩として、梨花女子大学校とお茶の水女子大学、それぞれの総長・学長が女子高等教育のビジョンと戦略、そして課題について共に考えました。

カンファレンスでは学内選考で選ばれた本学の1年生2名が司会を立派に務め上げ、今年度新たに作成した海外向けの本学紹介映像も公開されました。日本を代表する女性リーダーであるキャシー松井さんからもビデオメッセージを頂き、学生に向けて大変温かく、そして力強いメッセージを頂きました。



パンデミック以降、学内では対面のイベントが長らく開催されていませんでしたが、入念な準備のもとに本カンファレンスはウェビナーと徽音堂での対面参加のハイブリッド形式で開催する運びとなり、オンラインは112名、対面では80名の方が参加し、附属高校からも約20名が対面で参加しました。



両学長の講演内容はリンクする点が多く、STEM分野での女性の活躍、パンデミックやデジタル・トランスフォーメーションによってもたらされた教育のパラダイムシフト、そしてAIとジェンダー・センシティビティ等に話題が及び、本カンファレンスは両大学にとって貴重な意見交換の場となりました。両学長には学生からの質問にも真摯にご回答頂き、文字通り「学生との対話」を実現することができました。

文責：岡村 利恵
(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)



本講座は、産業界、金融界、公的機関、報道・マスメディアなど各分野の第一線で活躍中の方をゲスト講師としてお招きし、その仕事の内容や社会的な役割についてご講話を頂くとともに、ご自身の職業体験をベースに、女性が自立したキャリアを構築していくうえでのポイントや視座について、幅広くお話頂くことを趣旨として運営されています。

本年については、10月19日の前島優子氏（鉄道運輸機構 統括役）を皮切りに、10月26日に古市峰子氏（日本銀行 金融研究所企画役）、11月9日に木原麗花氏（ライター・ニュース・アンド・メディア・ジャパン マクロ経済政策担当部長）、11月30日に北澤緑氏（アルファデザイン・アセットマネジメント ジャパンコントローラー）、12月7日に小室伊都子氏（住友商事ヘルスケア事業部 参事）、12月14日に藤原由紀氏（監査法人トーマツ シニア・マネージャー）、12月21日に五十嵐真奈氏（集英社SPUR.JP 編集長）を各々お招きし、その仕事の内容や社会的意義、女性の視点からみた職業と生活の両立のあり方などについて、多方面に亘るお話を伺いました。

本年は新型コロナウイルス感染症防止の観点から昨年と同様、オンライン開催が基本となりましたが、いずれの

回についてもゲスト講師ご自身の実体験とそこで得られた知見や教訓、苦労話などについて、丁寧かつ踏み込んだお話をご披露頂きました。その後の質疑応答も時間内に収めることが容易でないほど活況を呈し、女性にとってのキャリア形成の意味や対人関係構築・リーダーシップのあり方などについて、受講者が具体的なイメージをもって考える機会になったものと思われます。お茶大生の問題意識の高さや率直な学びの姿勢に対しては、ゲスト講師陣から「大変有意義な機会だった」、「学生からの問いかけに触発された」、「お茶大生の活躍を応援したい」といった声が多く寄せられました。

授業担当：松下 顕

（グローバルリーダーシップ研究所 客員教授）



活動報告

2021年度微音塾 9月～12月の報告 (2021年9月4日-12月11日)

8月の一ヶ月の休みをおいて、後半の科目がスタートしました。

9月～10月の「お茶大プロフェッショナルレクチャー」（本学教員担当）は、「近代精神の器としてのピアノ」（小坂圭太講師）に7名、「ダンスの魅力を科学する～運動を楽しむと健康になる～」（水村（久埜）真由美講師）に7名、「遺伝子からみえる疾患のメカニズム」（由良敬講師）に3名、「男女共同参画と途上国支援に関する科学・技術コミュニティの変容の事例」（森義仁講師）に3名参加と、ゼミのような和気藹々とした雰囲気でした。受講者の満足度も高く、凝り固まった考え方に新たな視点を得られたという感想もありました。

11月～12月の「ビジネス講座」は、「マーケティング入門」（神原理講師）に5名、「経営戦略の基礎」（露木恵美子講師）に7名、「会計基礎力を身に付けるー取引記録の仕組みと企業活動の成績表ー」（櫻井康弘講師）に

8名参加で、異業種同士の交流に意義と面白さを感じた受講者も多かったようです。

ネットワーキングランチは10月に「やりたいことがないのだめですか？好きなことにシンプルに向き合う」（森岡悠翔氏）を吉岡かな子氏の塾生企画で行い、本当に好きなことや仕事のあり方について見直す貴重な機会となりました。

オンライン講座も2年目を迎え、今年度は海外からの参加者もいます。全体修了や年度またぎの修了等についての問い合わせも増えており、ありがたい限りです。

年明けにも3月まで5科目が控えています。多様な女性に役立つ場であるようお願いしております。

文責：森 暁子

（グローバルリーダーシップ研究所 特任アソシエイトフェロー）



お知らせ

2021年度「未来起点フォーラム」開催

社会連携講座「未来起点ゼミ(大学院では未来起点研究)」は今年で3年目を迎えました。今年の1年間の学びの集大成として、2021年度「未来起点フォーラム」をオンラインで開催します。

【2021年度「未来起点フォーラム」】

日時:2022年1月20日(木)

16:50~19:10(オンライン)(予定)

内容:1年にわたるゼミの集大成として、チームごとに設定したテーマに沿って、実現したい未来に向けたプレゼンテーションを行います。

参加申込方法:決定次第IGLのHPに掲載予定

このゼミでは附属高校生から大学生まで、様々な専門分野の学生が参加しています。前期は、自分の願望/軸を明確にし、未来を創る思考力、表現力、実行力を身につけるため、表現、プレゼン、システム思考、グラフィックレコーディングの専門家などを招き、講義とワークショップを通して、実現したい社会と自分のやりたいことを具体的に描くことを目標にしています。後期は各チームで取り組む

テーマを決定し、「未来起点フォーラム」で発表します。現在、発表に向け、学生同士や教員との対話を通して、テーマの仮説検証やエコシステムの検討などを行っています。また、ブリヂストンを含む学外の方からのアドバイスを求める機会も設けています。フォーラムの運営も学生が主体的に行っています。

フォーラムの参加方法やテーマの詳細などは決定次第、IGLのホームページに掲載する予定です。ご不明な点がございましたら担当教員までご連絡下さい。

郭:kaku.reiken@ocha.ac.jp

角田:

tsunoda.ayano@ocha.ac.jp

授業担当:郭 麗娟

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)



2021年度「アカデミック女性リーダーへの道(実践編)」開講

大学院生(博士前期・後期)課程を対象に、日本学術振興会(JSPS)特別研究員の申請準備、研究発表におけるプレゼンテーションのスキル向上を目的とした集中講義を開催します。

審査員経験者(教員)・現特別研究員による講義、仮申請書の個別指導、プレゼン演習とフィードバックなど、実践的な内容となっています。

次年度の学振特別研究員の申請、各種の外部資金獲得、大学・研究機関の公募書類などの準備をお考えの方、文系、理系を問わずぜひ受講してください。

聴講も歓迎します。

※授業形式については、随時最新情報をアップデートしていきますので、研究所のウェブサイトやMoodleページを確認するようにしてください。

(最新情報はMoodleに自己登録の上、ご確認ください)

授業担当:宝月 理恵

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)



エッセイコンテスト「Ocha-IGL Award 2021」募集について(メ切2022年1月11日(火)17時)

グローバルリーダーシップ研究所(IGL)では、IGL主催セミナー・シンポジウムに参加した本学学生を対象として下記のとおり英語でのエッセイコンテストOcha-IGL Awardを実施いたします。

このコンテストは、2020年に本学でご講演いただいたミュンヘン工科大学副学長クラウディア・ポイス教授が本学の学生のリーダーシップ教育にと講師謝礼を辞退されたため、先生のご厚意を契機として創設されたもので、「IGLセミナーにおいてリーダーシップ/リーダーについてのどのような学びが得られたか、その学びを今後どのように

活かしていきたいか」について、英語でまとめることをとおして、リーダーシップ/リーダーについての理解を深めることを目的としています。

なお、優秀作品には副賞が授与されます。

詳細はこちらをご覧ください。

担当:林 有維

(グローバルリーダーシップ研究所 特任アソシエイトフェロー)



グローバルリーダーシップ研究所 (IGL) では、2022年1~3月に以下のセミナー・国際シンポジウムの開催を予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。

開催日時	内容	参加費	備考
2022年1月21日 (金) 16:40-18:10	「ジェンダーの枠を越え自分発のリーダーシップを切り拓く—アナウンサーが大学教授に、専業主婦からの再出発—」 【講演者】 牛尾奈緒美氏 (明治大学情報コミュニケーション学部教授、同学部ジェンダーセンター センター長)	無料	【会場】 Zoomによるオンライン開催 【対象】 どなたでもご参加いただけます 【詳細】 https://www.cf.ocha.ac.jp/igl/j/menu/event/d010126.html 【申込】 HP内の専用フォームにて
2022年1月22日 (土) 16:00-17:30	「リーダーシップを育てる—私の "モザイク" の旅」 【講演者】 戴 廉 DAI Lian (だい れん) 氏 (ジョンズ・ホプキンス大学公衆衛生大学院 博士課程在学)	無料	【会場】 Zoomによるオンライン開催 (日英同時通訳付) 【対象】 どなたでもご参加いただけます 【詳細】 https://www.cf.ocha.ac.jp/igl/j/menu/event/d010110.html 【申込】 HP内の専用フォームにて
2022年2月18日 (金) 13:00-19:00	IGL/IGS合同シンポジウム	無料	【会場】 Zoomによるオンライン開催 (日英同時通訳付) 【対象】 どなたでもご参加いただけます 【詳細】 https://www.cf.ocha.ac.jp/igl/index.html (準備中) 【申込】 HP内の専用フォームにて
2022年2月22日 (火) 16:30-18:00	「『自分らしさ』を活かしたリーダーシップについて」 (仮) 【講演者】 増山美佳氏 (増山 & Company 合同会社代表社員社長・サントリー食品インターナショナル (株) 社外取締役・コクヨ (株) 社外取締役・鴻池運輸 (株) 社外取締役・立命館大学大学院経営管理研究科客員教授)	無料	【会場】 Zoomによるオンライン開催 【対象】 どなたでもご参加いただけます 【詳細】 https://www.cf.ocha.ac.jp/igl/index.html (準備中) 【申込】 HP内の専用フォームにて

グローバルリーダーシップ研究所ロゴマーク決定

コロナ禍を契機に研究所のセミナーや国際シンポジウムもオンライン化が進みました。それにより、海外からの参加者や登壇者が非常に多くなり、国際的な場面でも通用するロゴの必要性が増してきました。そこで、今年度8月から9月にかけて研究所のロゴを学内公募で募り、厳正なる審査の結果、本学学部生の作品が最優秀作品賞を受賞しました。

作品にある円を基調としたデザインは「グローバル」を彷彿とさせるもので、また世界へ羽ばたくというメッセージが込められた鳥のイメージが取り入れられています。IGLのミッションであるグローバル女性リーダーの育成ということを意識した優れたデザインであるという点が高く評価されました。

新たなロゴとともにIGLの活動もさらに躍進できるよう引き続き努力を重ねて参ります。

文責: 岡村 利恵
(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)

